

国内ロジスティクスの要衝に7棟の巨大倉庫群。 「地の利」と「器の利」で滋賀の物流を担う。

「地の利を考えた倉庫業は、一度事業を起せばこの地を一步も動けない。だから滋賀を元気にすることが経営に直結する」と浅野邦彦社長は話す。陸上輸送の要衝の地、栗東に7棟の巨大倉庫を構える浅野運輸倉庫。「地の利」と「器の利」をさまざまな地域経済振興のために活用してきた。例えば、栗東で輸出入手続きを行える内陸通関業務への進出。政府備蓄米の保管から始まった低温倉庫の運営。「先代、先々代から受け継いだ地の利、器の利をどう滋賀に役立てるか。それは私の代でも変わらない経営課題だ」。そう話す浅野社長に広大な敷地に広がる倉庫群を案内していただいた。



浅野運輸倉庫株式会社

代表取締役社長
浅野 邦彦氏

interviewer

頭取 **大道 良夫**
草津支店長 **西藤 崇浩**

社会に製品を循環させる物流で 心臓の役割を果たす倉庫業

大道 ●巨大倉庫7棟の床面積を合わせると甲子園球場とほぼ同じ約3万9千㎡。貨物の保管容積は30万㎡にのぼるそうですね。

浅野 ■私たち倉庫業者はさまざまな商品をお預かりする、いわば「貨物の銀行」です。また、倉庫は需給調整、価格調整、価値保存の三つの機能を備えています。そして、多くの商品を保管するための「キャパシティー」と、入出荷と交通の利便性に富んだ「ロケーション」という機能を提供する業種ですが、幸いにも当社はその両方を備えています。ここは国道1号線と8号線が交わり、名神高速道路の栗東インターチェンジにも近く、近畿圏と中京圏、北陸圏を結ぶ国内ロジスティクスの要衝といえる地です。関東の同業者からは「交通の結節点として非常に有利だ」とうらやましがられます。

大道 ●関西経済圏から見れば草津や栗東はロジスティクス拠点として真っ先に着目される場所です。そのおかげで栗東周辺には大手メーカーの製造拠点が数多くあり、多様な製品が便利な道路網を使って全国へ送り届けられる時を待っています。



広大な保管スペースを持つ7棟の倉庫群

浅野 ■その製品群の物流を社会に栄養を送り込む血流にたとえるなら、製品をストックして随時出荷する倉庫業者は心臓の役割を担っているといえます。

滋賀のグローバル化に対応して 保税蔵置場許可を取得

大道 ●それにしても広大な敷地ですね。総敷地面積は約2万坪（6万㎡弱）。創業時からこれだけの土地をお持ちだったのですか？

浅野 ■いいえ。創業の地は草津で、終戦の翌年に祖父で前会長の浅野正太郎が始めた運送業が当社のルーツです。当初は草津で預かった荷物を風呂敷に包み、汽車に乗って大阪へ届ける飛脚のような業態だったそうです。やがて貨物自動車運送を手掛けるようになり、栗東に1号倉庫を構えたのは1970年のことです。

西藤 ●敷地内を流れる川に架かる橋は「正太郎橋」と名付けられています。創業者をたたえ、しのお思いを込めた命名なのですね。

浅野 ■1号倉庫を建てた当時、周囲には田園だけが広がっていました。祖父と父である浅野恭司会長が二代にわたって隣接地を買収し、7棟の倉庫を次々と建設してきました。トラック購入より倉庫拡充に投資する方が効果的と判断し、倉庫業を軸にした業態にシフトしてきた結果、いまの売上比率では倉庫業が当社の看板になっています。

大道 ●7棟の倉庫の中で特に目を引くのが、「保税倉庫」として機能する1号倉庫です。通常は港や空港で行う通関手続きを御社で済ませることができ、輸出入の流れがスムーズになるようですね。

浅野 ■1号倉庫が保税蔵置場許可を得



きれいに整理整頓された倉庫構内と搬送トラック

たのは94年。「グローバル化に備えて内陸通関を滋賀でも実現しよう」という県内企業の声の高まりに応えようとしたものです。97年に、私たち自身が県内業者で初めて通関業許可を取得したことで、保税・通関に関わる一切の業務をワンストップで行えるようになりました。

滋賀で通関手続きを済ませれば その日に船に積み込むことも可能

大道 ●そもそも保税蔵置場とは何ですか？

浅野 ■輸出される荷物をお預かりして通関手続きを済ませると、もうそれは「外国貨物」になります。輸入の場合は逆に、「外国貨物」の状態でお預かりして通関手続きを行います。この外国貨物を置いておける場所が保税蔵置場です。法的に国外と見なされるこの1号倉庫を持つているからこそ、私たちは外国貨物となった荷物を船に直接積み込み、海外からのコンテナを直接受け入れることができます。

大道 ●県内の企業が製品を輸出入する際、港湾で通関するのと御社で行うのとではどう違うのでしょうか？

浅野 ■あらゆる荷物を扱う大阪港や神戸港に比べて当社で扱う通関件数は少ないので、きめ細やかな対応ができます。私



代表取締役社長
浅野 邦彦氏 (あさのくにひこ)

1961年生まれ。94年、浅野運輸倉庫株式会社
の取締役就任。常務取締役、専務取締役を経て
2004年に代表取締役社長に就任。滋賀経済同
友会副代表幹事、滋賀県倉庫協会副会長、滋賀
県食糧保管協会会長、日本関税協会大阪支部滋
賀保税会会長等を務める。

経営理念

質実剛健
質素俊約
日に新たに

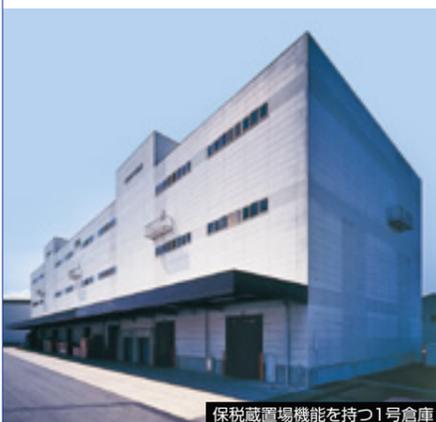
【会社概要】

浅野運輸倉庫株式会社

- 資本金/1億円
- 従業員数/50名
- 事業内容/
倉庫業、運送業、通関業、保税業務 その他
- 所在地/栗東市高野588
- URL/http://www.asanowarehouse.com/

【プロフィール】

- 1946年 浅野正太郎氏が浅野運送店を設立
- 1962年 貨物自動車運送事業許可取得
- 1964年 浅野運送株式会社に社名変更
- 1965年 浅野運輸倉庫株式会社に社名変更
- 1994年 保税蔵置場許可を取得
- 1996年 食糧庁指定倉庫の指定を受ける
- 1997年 通関業許可を取得
- 2006年 安全性優良事業所認定「Gマーク」を取得
- 2011年 運輸部門がグリーン経営認証を取得
- 2012年 倉庫部門がグリーン経営認証を取得



保税蔵置場機能を持つ1号倉庫



「保税蔵置場」で輸出入の通関手続きの説明を聞く、左から大道頭取、浅野邦彦社長、西藤支店長

たちが目指すのは「日本一親切な通関業者」です。お客さまの立場になって煩雑な手続きをお手伝いしますから、初めての企業でも安心して確実な輸出入業務ができます。また、船便で輸出する場合、港で通関するには出港日の1週間ほど前には港湾倉庫へ荷物を搬入しなくてはなりません。私が、私どもで通関手続きをしていただければ、最短でお持ち込み当日に船に

載せることも可能です。大道●それは素晴らしい。県内に工場をお持ちの企業なら、製造期間における1週間の差は大きいでしょう。通関手続きのスピードは生産性に関わりますね。物流はまさに「時間を扱うサービス」。陸上輸送の結節点に内陸通関機能を持つ御社は、滋賀と海外を短時間で結ぶ、架け橋になるかもしれません。特に近江牛、近江米等の滋賀ブランドの海外展開には力強い味方になるでしょう。浅野■ぜひお手伝いしたいですね。食品だと港での検疫が必要になります。それも当社でつなぐことができます。ただ、私たちのPR不足なのか、当初の想定ほど内陸通関の扱ひ量は増えていません。本社が県外にある企業では、大阪や神戸での通関の方が好都合なかもしれません。当社の通関していただく港までの運送費等は非課税になりますし、今後の消費税率アップにより内陸通関の需要が増え期待できます。

毎朝、お米の「声」を聞く 低温倉庫での品質管理

大道●2号・3号・4号倉庫はお米の備蓄に適した低温倉庫です。95年の新食糧法施行時に国が定める備蓄米の保管場所が滋賀にはなく、一般倉庫を低温倉庫へと順次改築されたそう。浅野■穀物につく害虫を抑えるため、夏場は庫内温度13℃、湿度65%程度に保たなければなりません。特に2010年に新型の設備を導入した4号倉庫は、より冷気の循環効率を高めています。政府備蓄米の保管に始まり、近江米はもとより全国各地の産地米、滋賀県産大豆などもお預かりしています。長期間にわたって万全の品質を保つための努力は怠れません。大道●毎日、ストックエリアを丹念に温度管理されるほか、お米の中へ温度計を差し込んで穀温もチェックされているそうですね。この時代に、あえて人の手で温度管理されるのはどうしてですか？

浅野■お米や大豆は生きています。機械で計測できるのは数値だけで、穀物の息づかいまで感じることはできません。倉庫管理スタッフにはこう言っています。「朝、倉庫のドアを開けたら、「居心地はいかがですか」とお米に聞きなさい」と。倉庫に入った時のお米のおいなど、人が五感で

地域のために頑張れば 倉庫業も元気になる

大道●他府県では「倉庫が長らく空いている」との話も耳にします。周辺の工場の閉鎖や統廃合の影響のようですね。浅野■利便性の高い滋賀には大手製造業のマザー工場が多く、生産拠点の統合でも滋賀に集約されるケースが多いようです。近畿の倉庫業界の中で伸び率は滋賀県が断然トップで、元気のいい業種といえます。ただ、継続顧客が多くて安定している反面、地域の景気変動の波をもろに被る業態でもあります。滋賀県経済をいかに元気づけるかが当社の将来を決める重要なテーマになっています。

大道●だから、浅野社長は滋賀経済同友

感じ取って判断できる部分が絶対にありますから。「なんだか息苦しい」「もうちょっとで倒れそうや」といった「声」が聞こえたらすぐに対応できる。「それぐらいになれ」と言っています。

大道●独特の発想ですね。預かったお米の品質を保つ最善の道は、お米の気持ちがかかるようになることとは。御社の品質管理に対する真摯な姿勢が伝わってきます。

機械化できない作業が多いから 現場力アップで人材育成

浅野■温度管理や荷物の積み下ろしをはじめ、機械化できない作業が私



緊急時の広域物資拠点施設に指定されている、7号倉庫の自家発電装置

会副代表幹事をはじめとする多くの公職に就いておられるのです。最後に倉庫業界への提言をお願いします。浅野■特定企業の専属になる。通販の物流センターなど特定の機能に特化する。あらゆる貨物をキャッチする。倉庫業はこの三つの道のどれかを選ぶべき時代を迎えています。自社の適性を見極め、特色の鮮明化が重要でしょう。当社が選んだのは、キャパシティーと地の利を生かして多くの荷物を預かる三つ目の道。最もシンプルですが、「この地で倉庫業として生きる」という覚悟を持ち、滋賀県の物流会社として地元の物流機能の中核を担う気概で今後も努めていくつもりです。

大道●改めて物流業界が地域経済に果たす役割は極めて重要だと実感しました。本日はありがとうございました。

ちの業務からなくなることではないでしょう。少子化で労働力が不足する時代になっても、元氣なマンパワーがみなぎる会社でありたい、でない倉庫業として生き残れません。そう考えて、リーマン・ショック後の不況でも新卒者の採用を続けてきました。従業員の平均年齢は若く、氣力と体力では負ける氣がしません。大道●一般倉庫の5号・6号・7号倉庫では大手メーカーの製品が大量に保管されています。巨大な7棟の倉庫を50人ぐらいで運営されていると聞いて驚きましたが、浅野社長が自慢の「若さ」の賜物ですか？

潜在能力を掘り起こす人材育成に注力していることも理由の一つです。例えば、入社10年目くらいの若手を対象にした「チャレンジシステム」。上司の仕事である各倉庫の管理業務を若手に任せ、失敗も含めて経験させることで自覚や責任感を養っています。こうして培った「現場力」こそが当社の財産だといえるでしょう。西藤●7号倉庫は緊急時に物資を保管できる機能を備えているようですね。浅野■被災地に救援物資が届いても「貯蔵する場所も電源もない」ために困った。そんな東日本大震災での教訓を踏まえ、国交省の呼び掛けに応じて、7号倉庫の照明やシャッター開閉、荷役機械充電のための電力を自家発電でまかなえるようにしました。災害等の緊急時には物資保管を受け持つ協定を滋賀県と結んでいます。